

研究開発だより

Vol.3

「光輝(かがやき)」で資質・能力を働かせ、輝いている子どもたちの様子をお届けいたします!

ピタゴラススイッチをつくりたい!!

5年生の実践より

5年生は、コロナ禍において中止せざるを得なかった校外宿泊学習の代わりに、そこで体験するはずだった様々な体験活動をできるだけ実現させたいと考えました。そこで、校外宿泊学習の目的や目標を紹介し、学校でもできる形でどんなことをやりたいか、話し合いました。すると、たくさんの自由なアイデアが出てきた中から、実現可能なものを精選し、自分たちで新たな行事を作ろうということになりました。それが、「輝け!!GoGo文化祭」です。

文化祭の準備を進めるにあたり、各教科での学びを最大限生かすことを、子どもたちに伝えました。たとえば、アートパートの裁縫小物づくりチームでは、家庭科の授業で習った裁縫の学習を生かして、作品を制作しています。サイエンスパートのスライムチームでは、スライムに使う材料を調べました。算数で学んだ「単位量当たりの大きさ」の学習を生かして、一人分の分量から、全部で必要になる分量を計算して求めています。本誌では、図工の学習の様子をご紹介します。

それならば、作った装置を自分たちで遊ぶだけで終わらせ



しまうのではなく、動画に撮影して音楽を付け、文化祭の一つのコンテンツとしてみんなに披露できるようにしてみてもどうかと考えました。しかし、すべての取組を光輝の時間で行うには時間が足りません。できる限り他のさまざまな教科の学習を生かし、取り入れて準備を行う必要があります。

いよいよ、巨大ピタゴラス装置作りの日がきました。子どもたちの希望は学校の校舎全部を使って作りたいということでしたが、他の学年の生活のことも考えると、校舎ではなく、景雲ハウスを使って作ることにしました。



1時間目から6時間目まで全部図工、という図工の日を設けました。景雲ハウスの階段の3階の踊り場をスタートとし、玄関をゴールとします。学級を6つのチームに分け、それぞれチームで担当の場所のコースを作ります。家庭から持ち寄った様々な材料や、これまでの学習で使った木の板や針金、段ボールなどを使って作業を進めていきます。時間もたっぷり使える中で、こだわりをもっていろいろなことを試していました。いろいろな素材から発想を膨らませ、材料を組み合わせながら制作を進める様子は、とても楽しんでいるようでした。

輝け!!GoGo文化祭

アート パート	パフォーマンス パート	ムービー パート	サイエンス パート
裁縫小物 づくり	お笑い	プロモーション ビデオ	理科実験
新聞掲示	ダンス	ピタゴラ スイッチ	スライム作り
写真	合奏		種配り
イラスト	劇		

校外宿泊学習ではこんなことをするんだということを紹介したとき、普段の学習ではなかなかできない、みんなで何か大きなものを作り上げる体験活動をするところがあると紹介しました。たとえば、巨大ドミノとか、カプラといったものです。すると、子どもたちは巨大ピタゴラススイッチをやりたいと言いました。学校全体を会場として、ピタゴラス装置を作りたいというのです。



しかし、だんだんと時間が経っていくと、楽しいばかりではなくなってきました。楽しい仕掛けを考えているのに、考えた通りにうまく運べない。チームの中でも、それぞれが好きなものを作ってしまい、一つのコースとして組み合わせることができない。チームとチームのつながりを考えていなかったために、コースがつながらない。様々な問題が噴出してきました。



教師側としては、そうなる前からチャンスと考えていました。教師のマインドセットとして、うまくいかないことをいかに乗り越えていくかを見守り、支援していくということを大切にしました。教師が直接手を貸して問題を取り除くことが簡単なことですが、それをしないことで、子どもたちの力を伸ばしたいと考えました。

子どもたちは、レジリエンスを発揮して、何度も試行錯誤することでクリアする子、チームで相談したりチーム間で話し合ったりしてコラボレーションすることで乗り越えた子、泣く泣くアイデアをいったん諦め、他の方法を探ることで先に進もうとする子、いろいろな姿を見ることができました。

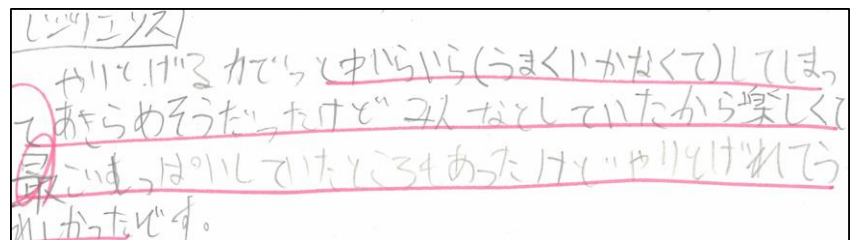


レジリエンスの捉えはさまざま

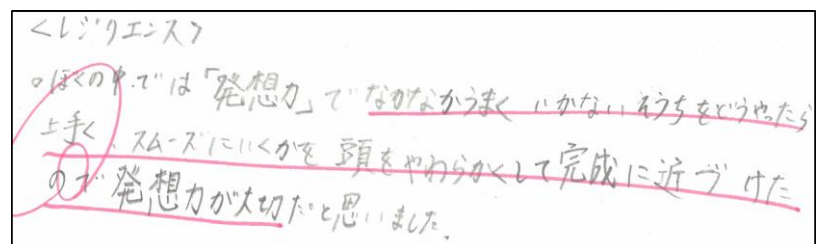
この活動のふり返りとして子どもたちはこんなことを考えました。

A児は、「全然うまくいかなくてすごくいやだったんだけど、最後までやめることなく一生懸命できたのでよかった」と言っています。粘り強く取り組むことでやりとげることができたと考えていました。

B児は、「途中うまくいかなくていらいらしてしまって諦めそうだったけど、みんなとしていたから楽しくて、最後失敗していたところもあったけど、やり遂げられてうれしかった」と書いています。友達とみんなで取り組むからこそそのよさについて感じており、コラボレーションする力が大切だったと考えたようです。



C児は、「なかなかうまくいかない装置をどうやったらスムーズにいくかを頭を柔らかくして完成に近づけたので、発想力が大切だと思いました。」またF児は「途中、視野が狭くなってしまい、自分中心の考え方になってしまった。」つまり、広い視野でものごとを考えることが必要だと考えているようです。



このように、子どもたちは、同じレジリエンスについてふり返っているのに、様々な視点からレジリエンスについて捉えていました。「レジリエンス」と一言と言っても、その内容は多岐にわたります。単元の導入で、自分たちにとってレジリエンスとはどんな力なのかを自分たちの言葉でキーワード化したことによって、子どもたちは自分なりの考えに基づき、困難な状況の乗り越え方を考えることができました。

